

平成 14 年 (ワ) 第 19276 号 平成 15 年 (ワ) 第 6732 号 平成 16 年 (ワ) 第 104 号

原 告 シヤムスリ外 8 3 9 6 名

被 告 国 外 3 名

報 告 書

2005 年 9 月 12 日

東京地方裁判所第 49 民事部 御中

原告訴訟代理人

弁護士 島 村 美 樹



当職は、Tanjung (タンジュン) 村の Herman (ヘルマン。原告番号：K9) から下記のとおり聴取した。

記

第 1 身上関係

私は、1957 年 4 月 2 日にタンジュン村バンチャ・ルブック集落で生まれ (現在 48 歳)、小学校を終了した後、主に農業に従事していますが、時々大工仕事もします。

私の家族は、妻と長男 (24 歳) をはじめとして、6 男です。

私は、移転前は、バンチャ・ルブック集落の中のバリンギン・トゥンガ集落にある母の家に住んでいました。

第 2 移転前の状況

1 土地

(1) ゴム園

両親から受け継いだゴム園が 3 カ所ありました。川に近いところと、その奥に 2 つゴム園があり、その 3 カ所を兄弟姉妹 5 人で分け合い、ゴムの収穫を分担していました。

(2) 水田

カンポン・サワ地区に水田が 3 カ所ありました。1 ha 強と 4 分の 1 ha 弱の 2 カ所は私が農作業をして収穫していましたが、もう 1 カ所 0.5 ha 位の水田は、妹達が農作業をして、彼女達が収穫していました。

(3) 畑

ムアラタクス村に近いのキナワイという所に、全部で 1.5 ha ~ 2 ha の移動畑

がありました。半年は陸稲を作って収穫し、その後、豆や唐辛子を作っていました。

(4) その他

クリットマニスを植えるための土地1 ha を政府からもらっていて、少しくリットマニスを植えていました。

さらに、家の周りには、0.25 ha 弱くらいの庭地があり、そこに、ココナッツ、ドリアン、ジュンコル、マンゴー、マンゴスチン、コーヒー、ランバイ、プタイなどの果樹を植えていました。

2 生活の状況

移転前は何の問題もなく、とても幸せな生活をしていました。

(1) 生活

水田からとれた米と移動畑で採れた作物で1年間の食料は十分でした。家の周りで採れた果物は家で食べたり、売ったりしていました。

また、カンパール・カナン川の魚を捕って家族で食べ、たくさん魚がとれた時はマーケットで焼き魚にして売ったりしていました。

大工の仕事も少ししていました。

また、ゴム園の収穫で現金収入がありました。

(2) 行事等

移転前は、ルマガダンに沢山の人が集まって、沢山の行事しました。皆でニニックマックを訪問し、一緒に食事をしました。これらの行事をすることにより、私たちは、先祖との強い繋がりを感じていました。これらの行事は、移転前は、皆が食事を持ち寄ることができ、水牛も沢山いたので問題ありませんでした。

以下に詳しく述べます。

ア ラマダンの前

ラマダンの前に、バリマウという行事がありました。このとき、村人は、軽い金属製のものを頭に掛けて布を被せて、鳴り物をたたいて、100人くらいで村を練り歩きました。その後、皆で、カンパール・カナン川で沐浴しました。お祝いがくる前に、皆で体を清めて喜ぶ、という意味がありました。

イ ラマダン開けの時

ラマダン開けのことを、レバラン又はイドウルフィトリと言いますが、この時も村でお祭りをします。

村人達皆で、バンチャ・ルブック地区を鳴り物入り行列で練り歩きました。

その際、皆で食事をしました。

また、サンパンという小舟で競争するという行事、パンジャピナンという子供たちのために木に登って果物をとる行事、パチュゴニという芋袋の中に入って競争する行事、マンディ・クラバウという水牛を殺して食べる前に水牛をカンパール・カナン川の沐浴で清める行事などがありました。

そして、この後に、各スクで1年間に結婚した人の正式な結婚承認式がありま

した。新婚夫婦達が二人の誓いをし、皆が集まって食事をしました。

また、ラマダン開けの後、皆で集まって食事をしました。

ウ トゥール・マンディ

また、トゥール・マンディとって、新生児が生まれて1週間くらい経った時、カンパール・カナン川で沐浴させる行事もありました。このときは、その子のスクの人がバノという楽器をたたき、歌を歌いながら集落の中を歩き、カンパール・カナン川に行って赤ちゃんを沐浴させます。

(3) 共同作業等

村人が共同でする作業としては、セリカットという、土地の整地をする作業がありました。これは、たとえば毎日15人が交代で土地を整地するというもので、当時は近くに虎が沢山いたので、沢山の人数で、身を守るための武器を携えて作業をする必要がありました。

村人が亡くなった時も、村中の人が集まって儀式をしました。埋葬の後、7日間お祈りをするのですが、そのお祈りをする人のために、村人がお米を持って集まって来ました。埋葬後、100日目にもお祈りがあります。

(4) ルマガダンの使用

ルマガダンは、ラマダン開け後、皆がまず集まる場所でした。また、そこでは、移動畑の収穫が悪い時の相談や来年の行事の予定など、村の大事な話し合い＝ムシャワラが行われていました。このように、ルマガダンは、普段は使用しませんが、特別な時に、皆が集まって食事をしたり、ムシャワラが行われていました。

私が所属するピリアンのスクのルマガダンは古いもので、私の母が小さい時からあったそうです。

3 その他の状況

飲料水、水浴、洗濯など、水はすべて、家のすぐ近くに流れていたカンパール・カナン川を利用していました。

第3 移転の経緯

1 ダム建設に関連する動き

(1) 杭打ち

20年くらい前に、TEPSCOが村に杭を打って行きましたが、何のために打っていったのかは知りませんでした。

(2) 2度目の杭打ち

正確な日付は分かりませんが、冠水前に、ジャワ島からPLTAの人が来て、グンブンス村の人を使って杭を打って行きました。この時に、初めてダムが建設されることを噂で知りました。この川がせき止められるなんて、信じられないと言っている村人もいました。しかし、この時は、自分たちの村が被害を受けるとは知り

ませんでした。そして、この杭打ちは、ダム建設に関連するということは知っていましたが、正確に何のためかは知りませんでした。

この杭を打った後くらいから、グヌンブンス村やムアラタスク村の人達は、財産目録を作り始めましたが、私の村では何も行われませんでした。

(3) ダムの影響を初めて聞いた時

1993年3月のころ、隣村のグヌンブンス村の人達が移転しました。その時、彼らは、ダムが建設され、村が水につかるから移転するのだ、ということを知りました。この時、初めてダム建設により影響を受けるかも知れないということを知りました。そこで、バンキナンの役所に行って聞いたところ、タンジュン村は関係ない、と言われ安心していました。

(4) 測量調査について

正確な日付は分かりませんが、インドネシア政府の測量チームがやって来て、私の水田があるバンチャケロ地域（バンチャ・ルブックの西側対岸の地域）を測量して行きました。このチームは、補償のために測っている、と言っていました。彼らは、カスイ川まで測って帰って行きましたが、測量結果は何も知らされませんでした。また、私の移動畑のあるキナワイの方は測量しませんでした。

測量チームは、その後、1997年頃にも村に来ました。当時、私のキナワイの畑は水につかっていたので、目で見ておおまかに広さを決めて行きました。

2 移転過程について

(1) 冠水被害を受けた地域

最初に冠水被害が出たのは1998年の初め頃、雨期のときでした。雨期は毎年、11月から翌年3月末までです。

冠水被害を受けたのは、バンチャ・ルブック、バリック・タンジュン、バンチャケロの3つの地域です。

突然、水が上がってきて、1週間水が引きませんでした。水の高さは、バンチャ・ルブックの低いところで、2メートル以上にも及びました。

通常の洪水の場合、水の高さはせいぜい膝くらいまでで、それも翌日には引いていきますが、この時は、水の高さがとても高く、また、なかなか水が引かないので、村人は怖くなりました。

その後、4回くらい冠水しましたが、2回目の冠水からは、水は4日くらいで引くようになりました。ここ3年間は冠水していません。なお、私の家は、バンチャ・ルブックの中でも比較的高いところにあつたので、冠水はしませんでした。

(2) 移転

上記のように、水が上がって来たので、村人は高台に移転し始めました。移転地は、移転後にドゥスン・ティガ (DUSUN TIGA) とか、ドゥスン・ウンパ (DUSUN UMPAT) と呼ばれるようになった地域です。最初は、15世帯くらいが、高台に逃げ、その後、徐々に移転していったものです。

結局、タンジュン村では、バンチャ・ルブック、バリック・タンジュンにすんでいた住民のほぼ全部にあたる350世帯がみんな移って行きました。比較的高いところにあり直接には冠水しなかった家も、いつ冠水するか分からず不安だった上、皆が移転し集落として機能しなくなってしまったため、そうした人たちも含めてほとんど全世帯が移転したものです。

最初の時期に移転した人達は、ニニックママックから土地を分け与えられました。遅れて後の方に移転した人達は、分ける土地がなくなってしまったため、土地を購入しなければなりません。私も、250万ルピアで母と妹のために土地を買い、2軒の家を建てました。私自身は、1999年頃に移転し、市場の近くに家を借りていましたが、その後、市場の横にある妻の実家に引っ越してきて住んでいます。

第4 移転後の状況

1 収入

移転前はゴムが1キロ350ルピアくらいだったのですが、移転後は値上がりし、現在1キロ6000ルピアくらいになったので、なんとか生活をする事ができています。ただ、移転前と異なり、食料をすべて購入しなければならなくなり、また、ゴム以外の農業収入がなくなったので、精一杯の生活で余裕はありません。移転前と比べて、生活は苦しくなりました。

2 水

以前は、飲料、水浴び、洗濯など生活水すべてについてカンパール・カナン川を使用していたので、何ら不自由は感じませんでした。

しかし、移転後は、カンパール・カナン川から遠くなったので、飲料水は、村のパスールのところにあるわき水を飲料用に使っています。水浴びについては、男性は急な崖を降りてカンパール・カナン川まで行きますが、女性や子供は、崖が危ないので、あまりきれいではないのですが井戸水を使用しています。

3 生活

カンパール・カナン川が遠くなったので、川を使う行事は難しくなりました。たとえば、トゥール・マンディという新生児を沐浴させる行事については、井戸水をするようになりました。なお、ムアラタクス村では、ダムの影響で、以前の場所が使えなくなり、慣れていない場所で赤ちゃんを沐浴させたので、村長の赤ちゃんが川に落ちてしまった事故もありました。

移転地では、スクごとのまとまりがなくなり、スクのルマガダンもないため、ルマガダンでする行事も無理になりました。たとえば、結婚の承認式については、以前のように村人皆が自由に集まって来るのではなく、招待状を出してその人達だけが来るようになりました。

第5 私が受けた補償

1 冠水前

冠水前、補償については誰からも何の説明もありませんでした。

2 冠水後

私の土地は、ゴム園の一部、水田、キナワイの移動畑が冠水しましたが、測量チームが、冠水しているキナワイの移動畑を目で見ても目算で測量して行きました。そして、私は、2001年、PLNパダンの人から、一方的に4つの封筒を渡されました。これは、キナワイにあった4つの移動畑の補償として給付されたもので、それぞれの封筒に155万9800ルピア、75万9480ルピア、65万8585ルピア、36万1420ルピア、合計333万9285ルピアで、とても少ないものでした。しかし、一方的に渡されただけで、何も意見をいうことはできませんでした。

また、クリットマニスを植えるための土地1 haについては、グヌンブンス村の移転地になったので、ほんの少しのお見舞い程度の金額を政府からもらいました。

家屋や水田の補償は何もありませんでした。村では家屋の補償を受けていた人もいましたが、多くは補償を受けられませんでした。そこで、私は、家屋の補償を受けなかった村人達と一緒にPLNに抗議に行ったところ、「補償の手続きはもう終わった。補償が欲しければ裁判をしろ。」と言われました。

第6 最後に

以上のように、私は、ダム建設により、被害を受けることになるとは全く知りませんでした。また、被害に対する補償も全く不十分なものでした。

他方、移転により、従来の豊かな生活がめちゃくちゃになり、村の儀式なども行われなくなり、村人同士の関係も以前より希薄なものとなってしまいました。

現在、80歳くらいになった母は、昔の土地や家の話をすると泣いてばかりいます。住み慣れた家を離れなければならなかったことが自分の体を壊されたのと同じような感じがすると言って悲しんでいます。

私は、ダム建設さえなければ、何の問題もなく豊かな暮らしを享受することができていたのに、ダム建設により、ある日突然、生活がめちゃくちゃになってしまいました。このような私達の窮状を打開するために、今回提訴致しました。

以 上